

経済・金融フラッシュ

No.08-031 2008/5/30

雇用統計 08年4月～失業者数が2年5ヶ月ぶりに増加

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

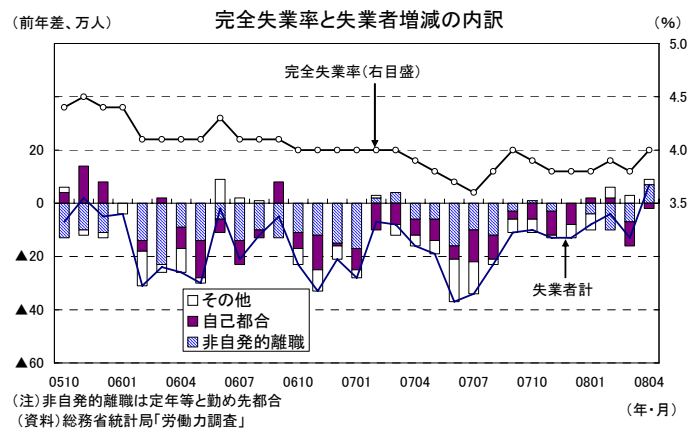
TEL:03-3512-1836 E-mail:tsaito@nli-research.co.jp

1. 雇用者数は3ヵ月連続で減少

総務省が5月30日に公表した労働力調査によると、4月の完全失業率は前月から0.2ポイント悪化し4.0%となった（ロイター事前予想：3.9%、当社予想は3.8%）。

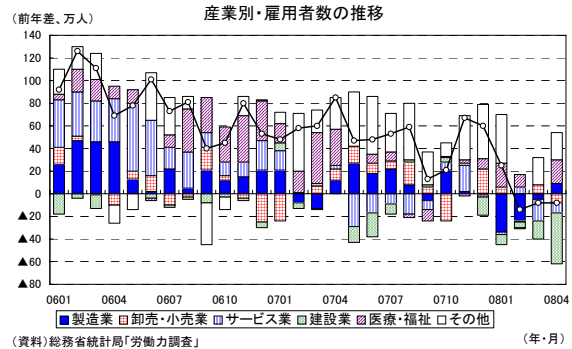
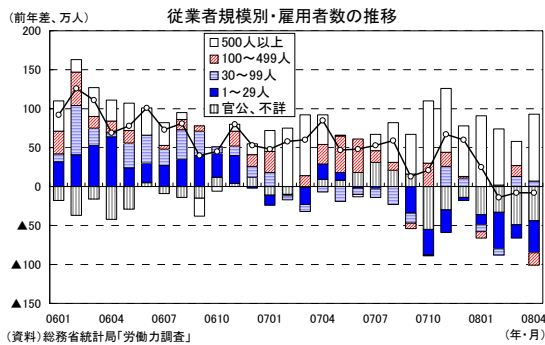
雇用者数が前年比▲0.1%（3月：同▲0.1%）と3ヵ月連続の減少となり、自営業主・家族従業者を含めた就業者数も前年比▲0.2%（2月：同▲0.2%）と3ヵ月連続の減少となった。

失業者数は前年に比べ7万人の増加となり、2年5ヵ月ぶりに前年の水準を上回った。失業者の内訳を求職理由別に見ると、自己都合が95万人と前年よりも2万人の減少となっているのに対し、非自発的な離職による者が96万人と前年よりも6万人の増加となった。非自発的な離職には勤め先の倒産、人員整理によるものが含まれており、失業者数が増えるとともに失業の中身も深刻なものとなりつつあることを示唆している。



雇用者数の内訳に従業員規模別に見ると、29人以下の中小企業は前年差▲41万人の減少となり、3月の同▲17万人から減少幅が大きく拡大した。原材料高に伴う収益環境の悪化などから、中小企業の雇用情勢はより厳しさを増している。

産業別には、製造業が5ヵ月ぶりに増加に転じたが、建設業が3月の前年差▲16万人から同▲45万人へと減少幅が急拡大した。建築基準法改正の影響で昨年夏場以降、住宅着工が急速に落ち込んだことに加え、4月は暫定税率失効に伴い地方の公共工事の執行が保留されたことも建設業の雇用悪化の一因になっている可能性がある。

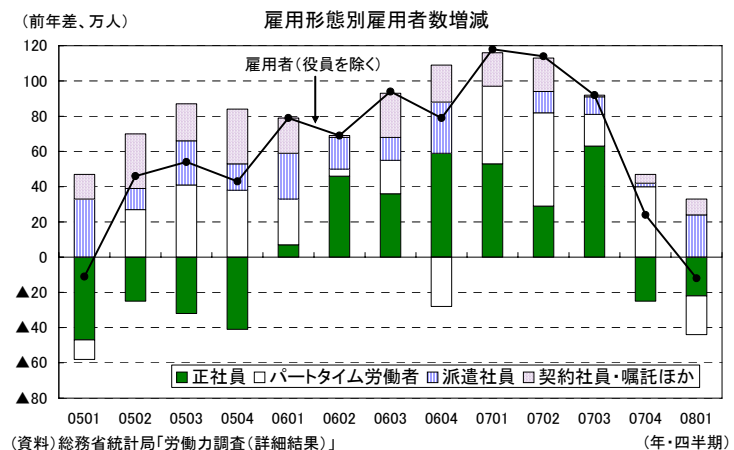


2. 非正規雇用比率は5 四半期連続で上昇

4 月分と同時に公表された 08 年 1-3 月期の労働力調査詳細結果によると、正社員（正規の職員・従業員）は 3371 万人と前年に比べて 22 万人の減少となり、2 四半期連続の減少となった。非正社員（非正規の職員・従業員）は 1737 万人と前年に比べて 11 万人の増加となったが、07 年 10-12 月期の 47 万人増から増加幅が縮小した。

パートタイム労働者が 5 四半期ぶりに減少した（10-12 月期：40 万人増→1-3 月期：▲22 万人減）ことがその主因である。

非正規雇用比率（役員を除く雇用者に占める非正社員の割合）は 34.0%となり、前年に比べ 0.1 ポイントの上昇となった。



毎月勤労統計では 2 月以降、一般労働者の伸びがパートタイム労働者の伸びを上回っており、パートタイム労働者比率の上昇には歯止めがかかる形となっていた。これは 08 年 4 月施行の改正パートタイム労働法を控えて、企業がパートタイム労働者から正社員への転換を進めているためと考えられていた。しかし、1-3 月期の労働力調査（詳細結果）では正社員、パートタイム労働者ともに減少しており、明確な正社員化の動きは確認されなかった。